

平成30年度事業「西川町議会事務事業評価シート」  
議会による事務事業評価（西川町議会）

予算科目		事業名
2	10款1項3目 教育振興費	スクールバス運行に要する経費
<b>1 項目別評価</b>		
評価項目	評価点	意見等
1 必要性 町民ニーズ	24	保育園・小学校・中学校が各1つの西川町では、広範囲に町全体から集まって来る子供たちのためにはスクールバスは絶対必要である。 児童・生徒の安全安心な通学手段を確保するうえでもスクールバス通学は必要。
2 妥当性 町が行わなければならないか	24	通学手段としてでなく、部活動や校外活動などの特色ある学校教育の手段としても積極的に活用するためには町が主体となって運営することが必要である。 交通事故や不審者への対応を考慮すれば町で行うべきである。
3 効率性 事業手法の効率はよいか。コスト削減の余地はないか。	12	児童数に対する距離や路線数を考えた場合、決して効率性は良くないが、スクールバスは効率性で評価できない面がある。 少子化に伴い、極端に子供たちの数が減少していることを考慮したとき、路線の編成替え等を綿密に行うべきである。
4 成果 目標の達成状況	18	通学手段以外にも部活動や校外活動に十分活用されており、教育の面からも成果は高い。 部活動への利用においては、各種大会や練習試合などの送迎に対し保護者の負担軽減に繋がっている。

**2 全体評価**

評価	評価基準	合計評価点
<b>2</b>	1 きわめて良好である 100点	<b>78</b>
	2 良好である 75～99点	
	3 おおむね適正である 50～74点	
	4 問題がある 25～49点	
	5 かなり問題がある 1～24点	
	6 不適正である 0点	

**3 今後の方向性**

評価	評価基準	判定理由
<b>3</b>	1 拡充する	保育園・小学校・中学校が各1つの西川町では、スクールバスの必要性は高い。また、校外活動や部活動にも広く活用されており、今後も更なる充実を図っていくべきである。  児童、生徒数が減少していく中、状況にあった的確な運行体制を常に心がけて行くべきである。
	2 現状のまま維持する	
	3 改善し継続する	
	4 見直しのうえ縮小する	
	5 期間設定し終了	
	6 廃止する	

**4 評価に係る意見等**

事業の総合評価に関する主な意見、特記事項及び今後の方向性の理由等
<p>平成23年に一括購入したスクールバス（9台）の更新期間が迫っており、財政面を考慮し、計画的な更新を検討すべき。また、児童生徒数の減少が見込まれ、町営バスと同様、必要なバスの台数の検討とバスの小型化を検討すべきである。</p> <p>現在、各号車の所要時間は20～30分くらいであるが、児童生徒数を勘案した同方向路線の統合等運行経路等の将来計画を立てるべきである。</p> <p>保育園児、児童生徒の安全確保のため車内撮影のドライブレコーダーの設置が必要である。</p> <p>待避所のないバス停における冬期間のバス停に対して、地域で設置するバス停への補助を検討すべきである。（マイロード事業のような部材費の補助等）</p>